

県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校 2 つくば研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>第1ステージ（開校よりの6年間）のテーマ「教育理念から実践へ」から、第2ステージのテーマ「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」に移行し3年が経過した。</p> <p>より高い教育水準を目指し、生徒主体の学習活動を展開するために「アクティブ・ラーニング」を推進してきた成果の一端として、卒業生の進学実績は順調に伸びている。また、より豊かな教育活動をめざした結果として、科学分野や芸術分野の各種コンクール等において優秀な成績を上げている生徒を多く輩出することができた。さらに、SSHのカリキュラム開発の取組が評価され、SSH第2期目の指定を受けることができた。</p> <p>これまでは、よりよい教育を目指して様々な教育活動を増やしてきたが、さらに中等教育学校の可能性を引き出すためには、教育課程・教科指導・学校行事等を再構築し、内容の精選をしていく時期に来ている。昨年度も行事の見直しに取り組んだが、6年間を見通した校内体制の整備をさらに進めていきたいと考える。また、例年の課題であるが、生徒の人権を大切にしたい丁寧な指導を心がけていきたい。</p>	1 意欲ある学校風土の醸成	○新しい時代に必要となる資質・能力を育成する。 ・「アクティブ・ラーニング」の推進により論理力を育てる。 ・ICTの効果的活用を工夫し、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。 ・縦割り活動を通して、生徒の協働して学ぶ態度やリーダーシップを育てる。	A
	2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	○体験活動を充実し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。	A
	3 SSH事業第2期目の推進	○学校設定科目「理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域連携、高大連携による探究力・論理力の育成を図る。	A
	4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントを活用して校内体制を改善する。	A

別紙様式2 (中等)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 校務運営 (教務)	SSH事業第2期目を推進するための教育課程編成や授業時間の確保、行事の調整を行い、学校としての体制を確立する。	SSH関連の講演会を総合的な学習の時間に位置づける等、学校行事や年次行事の調整を行い、年間を見通した計画的な授業時間確保を行う。	A	A 統合または削減できる学校行事のさらなる精選。 詳細な年間計画の策定。 論理国語や理数探究ⅠⅡⅢの理念実現のための検証。 非常勤講師の持ち時間と突発的な学校行事との調整。 5、6年次の文理混合クラス編成での授業変更の効率化。 成績処理システムの統一化と生徒指導要録との統合改善、デジタルポートフォリオの構築。 アクティブラーナーとしての学習意欲のさらなる喚起。 アクティブ・ラーニングを含めた総合的成績評価の研究。 真摯で適切な対応。
		「理数探究」の授業を効果的に運営するための行事・日課等の計画や調整を行う。	A	
		SSH事業第2期目の目的を達成するための理数系を中心とした学校設定科目の新設・改良を十分検討し、学校としての方針を踏まえた体系的なカリキュラム開発を推進する。	A	
	授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業が展開できるような学習環境・システムを整備する。	現行のA週B週C日課システムの利点を最大限に活かし、計画的な運用により授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。	B	
		出張、年休時の授業振替をさらに推進する。教務として授業変更を管理し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にす」意識の徹底を図る。	A	
		定期・実力テストに関する各教科・年次からの要望を取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されていくように、試験の位置づけや日程を十分検討していく。	A	
	6年間を見通した校内体制の充実を図り、アクティブラーナー育成のための並木中等スタンダードを確立、発展させる。	「アクティブ・ラーニング」やICTの活用を取り入れたシラバスを作成し、生徒のアクティブラーナーとしての自覚を高め、意欲をもった学習計画の立案を促す。	A	
		観点別学習状況評価について研修し、生徒個々の学習方法のチェックに還元できる評価方法を研究する。さらに、新テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。	B	
		保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見を取り入れていく。	A	
	(総務)	本校の目指す教育活動の活性化を図れるような生徒の選抜を行う。	入学者選抜内規を検討する。	
効率的かつ正確に入試事務処理が行えるように計画の工夫改善を図り、運営担当者の負担軽減と業務の細分化を図る。			A	
本校教育活動についての広報活動を充実させる。		生徒を前面に出した学校説明会及び日頃の「アクティブ・ラーニング」の実践や研究を生かした学校公開等の企画・立案を検討する。	A	
		生徒の躍動感をアピールする学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。	A	
儀式的行事を円滑に運営する。		HPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHPの更新を図っていく。	B	
		入学式、卒業証書授与式、修了式、創立10周年記念式典等の企画・運営を円滑に行う。	A	
(渉外)	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	校内の放送機器等の整備を行う。	B	
		P T A総会、本部役員会及び合同役員会を企画・運営する。	A	A 新規事業への理解協力依頼。 県及び県西組織との連携。 業務負担増への配慮。 参加者増加のための工夫。
		県高P連及び県西高P連との連携・協力を図る。	A	
		年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会、支部会を開催する。	A	
文化祭、ウォークラリー等、学校行事への保護者の参加協力を積極的に呼びかける。	A			

別紙様式2 (中等)

2 企画研究部	6年間を見通した「理数探究」の指導体制の確立を図る	生徒一人一人の理数探究の充実、及び指導する教員の指導力の向上を図り、年間を通して「理数探究」の授業の充実を図り、6年間を見通した「理数探究」の指導体制の確立を図る。	A	A	前期課程における課題探究基礎スキル養成。指導力を高めるための教員向けのサポート体制、「理数探究」の授業の充実。
	SSH事業第2期目の推進	・中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラムの開発と教材・指導法の実践的研究の充実を図る。	A		ICT環境や活用の充実を図った上で中高一貫を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラム開発と、教材・指導法の研究及び本校SSHの研究課題への取り組みの加速化。
	県内唯一のユネスコスクールとして国際理解教育の充実を図る。	ユネスコスクールとして日々の授業や様々な国際的な体験を通じて次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバルリーダー育成を図る。	A		県内初のユネスコスクールの活動及び本校の国際理解教育活動の充実。
(SSH)	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH第2期として、研究開発課題に対する実践的な取組を行い、5年間のSSH事業の方向性を模索する。 ・探究力、論理力を育成するカリキュラム（理数探究基礎、理数探究、論理国語、SS理科科目、数理科学A・B）を開発する。 ・探究力・論理力を育成する取組（つくばサイエンスフロント、自治体・企業との社会問題ミーティング、小中学生自由研究お助けセミナー、CSトレーニング）を開発する。 	①探究力、論理力を育成するカリキュラム開発	A	A	教材のバリエーションの更なる増加。
		②探究力、論理力を育成する取組の開発	A		探究ノートの開発。テーマ設定能力の育成。
		③地域連携、高大連携による探究力、論理力育成システムの構築	A		筑波大学との連携強化。探究力・論理力を育成する取組（つくばサイエンスフロント、自治体・企業との社会問題ミーティング）を開発する。
		④自主ゼミの実施	A		自立した学習集団を構築するために、リーダーとなる生徒の育成を行う。
		⑤他校への普及活動	A		カリキュラム開発の成果を授業研究会などで実施、HPによる普及。茗溪学園、竹園高校との定期的な連絡協議会の開催。
		⑥科学の甲子園ジュニア、科学の甲子園、科学オリンピックの活動支援	A		理数系教員を中心とした全校挙げての支援体制の確立。
		⑦事業の分析、評価	A		アンケートの実施を含めた事業の分析、評価のためのPDCAサイクルの確立。

別紙様式2 (中等)

(並木メソッド)	<ul style="list-style-type: none"> 理数探究の運営方法（ゼミ、発表会、探究ノート）を改善、発展させる。 前期課程ミニ課題探究の運営方法を系統化し、6年間の一貫した理数探究指導体制を確立する。 理数探究Ⅲの運用方法を検討する。 理数探究の水曜日6時限実施を検討する。 	①理数探究のカリキュラム開発	A	A	理数探究の運営方法（ゼミ、発表会、探究ノート）の改善・発展・充実。
		②探究ノートの開発	A		テーマ設定のための「探究ノート」の充実、及び探究する態度や意識を高める取り組み。
		③前期課程ミニ課題探究のカリキュラム開発	A		前期課程における更なる系統だったプログラムの開発。
(SGS)	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育・国際交流など特色ある学校づくりの取組を行う。 県内唯一のユネスコスクールとしてESD教育に積極的に取り組むと同時に普及を目指す。 	①SSH事業とリンクをさせた国際理解教育を充実させる。 例：英語科と他教科のクロスカリキュラム実施やICT活用、「アクティブ・ラーニング」等	A	A	ICT活用、アクティブ・ラーニング等SSH事業とリンクをさせた国際理解教育の充実。
		②キャリア教育の視点や、外部機関（JICA・土木研究所・産業技術総合研究所・企業等）との連携を踏まえて、各年次に最もふさわしい国際理解教育に関わる行事を選択し、当該年次に提示する。	A		各行事の反省を踏まえ、よりよきものに改善して、さらなる充実を図る。
		③海外から本校への訪問の受け入れ及び交流の企画立案を行う。	A		国際交流のさらなる充実。
		④ユネスコスクールの役割及びESD教育の意義などについて文化祭などを通じて生徒、職員を啓発し、普及を図る。	A		職員研修や前期課程のミニ課題探究でユネスコの理念を拡げ理解を深める。
		⑤ ニュージーランド語学研修のキャリア学習を含めた見直しと入札(9回生に向けて)を適切に行う。	A		事前学習をさらに充実させ、学ぶ姿勢を強化する。
		⑥5年次アジア海外修学旅行に向けて訪問国の検討を行う。	A		ベトナム修学旅行へ向けての啓発・広報・意識の向上などを含めた環境の整備。
3 学校生活部 (生徒指導)	基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い、自己実現を目指す。	全職員の共通指導を徹底する。	A		前後期職員の共通理解。
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るよう努める。	B		上級生が下級生の見本になるよう自覚化。
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成を目指す。	A		継続的に活動の促進。

別紙様式 2 (中等)

	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力を密にする。	A	A	より保護者との連携を密にして、家庭との協力による事故の未然防止。		
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力を図る。	A		学校と警察の連絡制度の活用及び連携。		
		生徒事故の未然防止に努める。	B		日常から生徒の行動を観察し、小さな変化にも対応して更に未然防止を図る。		
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A		特に雨天時の登校時指導を継続的に実施し交通安全、事故未然防止。		
		交通安全教育の徹底を図る。	A		定期的に講習会を開催し交通安全の意識を高揚。		
		定期的に自転車点検を実施する。	B		今後業者とも連携して定期的を実施。		
	(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応を図る。	学年と情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。		A	A	学年を超えて複数で対応し、情報を共有。
			校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。		B		校内の実態にあった研修の開催や文書の作成。
		年次・保護者との連携強化を図る。	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。		A		担任、年次主任との連携。
保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。			A	スクールカウンセラーや養護教諭とも連携し、保護者と丁寧な関わりを持つ。			
スクールカウンセラー（SC）の積極的活用を図る。		カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援を図る。	A	安心して受けられる環境の整備。(内面的な支援)担任、主任との連携			
		カウンセリングにおいて、SCと年次・担任等の間の連絡調整を支援する。	A	情報を共有し、有効な支援体制を構築する。			
(保健安全)	生徒の健康・安全教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。	A	校医との連携。			
		日常的な保健室利用生徒について、年次・担任・保護者との緊密な連携を図る。	A	今後も、関係教員および保護者との連携を図る。			
	校舎内の美化と安全を図る。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化を図る。	B	生徒自身が清掃の効果を実感できる縦割り清掃の実施。			
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	A	清掃強化週間における清掃活動の充実			

別紙様式2 (中等)

		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	A		定期的な点検を行い危険個所の改善を図る。		
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A		年度はじめの災害対応マニュアルの周知。		
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		地域との連携を強化した学校防災の取組の実施。		
(給食)	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	A	A	担任のみならず年次全体で食育指導を継続。		
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	B		給食係や給食委員会による常時活動の活性化。		
		職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A		給食指導を通して生徒とのコミュニケーションを深めクラス経営を円滑化。		
4 特別活動部 (特別活動)	部活動の活発化を図る。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	B	B	前期・後期課程の横断型の活動の模索。		
		部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	B		練習の質を上げる工夫。		
		部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		継続した指導体制づくりを図る。		
	主体性のある生徒会活動の推進を図る。	生徒会役員が、主体性をもって生徒会活動を進められるようにする。	A		B	生徒会活動の広報活動の充実。	
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	B			縦割り組織の充実を図る。	
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	B			広報活動の充実を図る。	
	学校行事の活性化を図る。	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上を目指す。	A		A	少数精鋭での活動の模索。	
		中等前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A			さらなる飛躍を目指す。	
		中等前期・後期課程の生徒が同日開催となるスポーツデイを成功に導く。	A			縦割り企画を模索する。	
		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	B			継続した指導が必要。	
	(ウォークラリー)	ウォークラリーを通して心身の健全な育成を図り、集団意識の高揚を図る。	体育授業での歩行練習で生徒の体力の増進に努める。		A	A	継続した指導を実施する。
			生徒自ら集団歩行・行動の大切さを身につけ、お互い協力して歩行できるよう促す。		A		継続した指導を実施する。
上級生から下級生まで全校生徒が一つになり行事の成功に向かうよう働きかける。			A	継続した指導を実施する。			
5 学習進路部 (進路指導)	6年間を見通したキャリア教育を促進し、生徒が可能性に挑戦する進学指導を実践する。	年次に合わせた進路行事の体験を通して職業観や進路意識を高める。	A	A	PDCAにより効果的に実施。		
		進路だより・進学要覧の発行および進学ガイダンス等により、生徒への啓発と保護者への情報提供を行う。	A		PDCAにより効果的に実施。		
		個人面談の充実により生徒に高い志と進路目標を持たせ学習時間の向上も図る。後期課程では土曜学習会を実施する。	A		PDCAにより効果的に実施。		
		模試学力分析会・進路研修会・学習状況調査により生徒情報を共有し、面談力の向上を図る。	A		PDCAにより効果的に実施。		

別紙様式 2 (中等)

(授業研究)	教員の学習指導力のレベルアップを図る。	毎月の授業参観(ちょっと見週間)を実施する。ちょっと見に連動して「アクティブ・ラーニング」やICT, TO 学習をとり入れた授業公開を実施する。	A	A	継続実施する。
		教師向け研修会・外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A		継続実施する。
(学習環境)	学習環境を整備する。	ブライツホールの利用を促進する。	B	A	休日開館を外部委託とする。
		赤本の充実を図る。	A		継続実施する。
(図書館運営)	図書館運営を充実させる。	図書の実用を図る。	A	A	継続実施する。
		図書室利用の促進を図る。	A		継続実施する。
6 PC システム	IT 機器を整備する。	ハードウェアを整備する。(PC 室の PC の入れ替えに伴い LL 室の PC を見直す。iPAd の一元管理を試みる。PC を確保し電子黒板用にセッティングする。サーバのファイルを整理し逼迫したバックアップ用 HDD を効率的に運用する。)	A	A	引き続き不足している PC や周辺機器等の整備を行っていく。
		ソフトウェアを整理・調整する。(iOS 用アプリの効率的な導入方法を検討する。校務支援システムを実態に合わせて調整する。)	A		サポートの終了に合わせた、迅速な対応を行う。
	ネットワーク環境の安全で安定な運用を図る。	セキュリティを向上する。(職員用 PC のウイルススキャンを自動化し、ウイルススキャンの結果を定期的に参照する。)	B		USB の使用に関して、学校の USB の整備と、使用上の注意喚起を行う。
		ネットワーク機器を補修・構築する。(教職員セグメントのスイッチングハブの老朽化に備える。)	A		予算との折り合いをうまくつけ、アクセスポイントも増やしていきたい。
7 事務部	教育環境の充実に努める。	授業研究充実のため、必要な設備、備品を整える。	A	B	要望のある設備、備品は必要性を考慮しながら可能な限り整備する。
		生徒が安心して学校生活を送るため、教育環境の整備に努める。特に雨漏り、排水のつまり等施設の老朽化が見られるので、予算の対応できる範囲で改修に努める。	B		大規模な改修は、引き続き県側に予算要求を続ける。軽微な修繕は、早急な改修の対応をとる。
8 1 年次	強い意志と高い志をもって、自分磨きができる生徒を育成する。	目標をもち、それらを達成しようという強い意志を育成するために、自己肯定感を高められるような言葉掛けを増やし、教科指導、道徳・学活の時間を充実させていく。	A	A	自分の立てた目標を達成できなかった際、自己を否定することなく、目標の立て直し方や努力の仕方を工夫するなどの力を付けていく。
		自分を信じて努力のできる生徒を育成できるよう、見通しをもって学習・行動するためのフォーサイト手帳を有効活用する方法を指導し、コメントを充実させる。また、定期的に家庭学習時間調査も実施して、生徒の様子を数値的にも掌握し、指導に活かす。	A		フォーサイト手帳でのフィードバックを充実させ、生徒とのコミュニケーションの手段として大いに活用できたので、対年度も継続していく。

別紙様式2 (中等)

	感謝の気持ちをもち、仲間と共に伸びる生徒を育成する。	自分を支えてくれている家族や友達、教師、自分を取り巻く環境などあらゆるものに感謝の気持ちをもてる生徒を育成できるよう、朝・帰りの会、道徳・学活の時間を充実させる。	A	A	年次内で同一歩調で道徳の時間について考え、心の教育に力を注いだ。来年度は道徳の時数をもっと確保できるようにする。
		校外学習や学年朝会、学年レク、学級レクなど、生徒自らが企画・運営する場を設け、自己有用感を高めていく。	A		生徒企画の活動を展開したが、創造力が乏しい。経験値の問題もあるが、次年度は創造力を伸ばせる場を多く設け、育成していく。
	よりよき考え方や方法を生み出せる、しなやかな生徒を育成する。	「アクティブ・ラーニング」を通して、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする場面を多く設定し、生徒が自ら考え主体的に活動できる授業を展開していく。	A		ALを展開することで、わかる楽しさや学びを深める面白さを学んだ。次年度も継続していく。
		R80を数多く活用し、学びや自己の振り返りから、思考の再構築の習慣をつけさせ、考える面白さを体験させる。	A		あらゆる活動・授業においてR80を活用し、自分を振り返る力を付けられた。次年度も継続する。
9 2年次	当たり前前の方が当たり前前 にできる生徒を育成する。	目を見て、誰にでも元気に挨拶のできるように日頃から指導を行い、さらに学校の決まりや、公共のマナーなどに対する意識を高め、実践・振り返りする時間を設ける。	B	A	自分から元気に挨拶ができること。
		課題の提出期限などを守り、見通しをもって行動できるように、フォーサイト手帳を有効活用する方法を指導し、支援を行う。	B		課題から逃げず、見通しを持って行動できる力を育てる。
	急速に変化している日本や世界に役に立とうとする強い使命感をもった生徒を育成する。	校外学習や語学研修、出前授業、講演会などの体験活動を充実し、卒業する5年後を見通した発達段階にあったキャリア教育を展開する。	A		自分から元気に挨拶ができること。
		総合的な学習の時間での個々の研究や職業について考える職業調べや講演会、様々な体験から、将来の適性を見出し、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。	A		課題から逃げず、見通しを持って行動できる力を育てる。
	感謝の心をもち、友と切磋琢磨できる生徒を育成する。	学校行事や年次行事、学級活動などを生徒自らが企画・運営したり、個性を發揮し活動したりできる場を設ける。	A		6年間を見通したキャリア教育の計画。
		部活動の中心的な立場としての意識を高めさせ、積極的な参加を促す。	A		将来の適性などを見いだす取り組みをさらに取り入れる。
	21世紀型能力をもった生徒を育成する。	「アクティブ・ラーニング」を通して、自分の考えを伝えたり、友の意見を聞いたりする場面を多く設定し、自ら考え積極的に生徒が活動できる授業を積極的に行う。	A		学校行事と年次活動、学級活動との関連性をもたせる。
		総合的な学習の時間や年次行事において、ICTを積極的に活用したり、効果的活用を工夫したりして、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。	A		部活動にさらに積極的に参加させる。
10 3年次	基本的な生活習慣を身につけ、自制心もち生活できる生徒を育成する。	あいさつや学校の決まり、公共のマナー、安全な生活、提出物等に対する意識を高める助言をするとともに、その振り返りを行う活動を設ける。	A	A	TO学習をさらに多く取り入れる。
		日々の生活の振り返りをしたり、時間管理能力や規則正しい生活習慣を身につけたりするため、手帳の有効活用を促す。	B		総合的な学習のミニ研究を他年次とのつながりを意識して行う。

別紙様式2 (中等)

	互いに認め合い協力できる生徒を育成する。	学校行事、校外学習や年次レク、学級でのレクリエーションなどを生徒自らが企画・運営したり、個性を発揮し活動したりできる場を設ける。また、部活動の中心的な立場としての意識を高めさせ、積極的な参加を促す。	A	A	各活動における企画委員の活動の充実。
	目標をもち、計画的に学習に取り組む生徒を育成する。 自己理解と進路意識の高揚を図る。(進路指導)	長期休業や各考査等の際に、長期的、または短期的な目標を設定し、その達成状況を振り返る活動を取り入れる。また、手帳を有効に活用し、学習計画及び学習時間の記録を促す。	B		目標を達成する学習計画の作成。
		教科担当と学級担任が、一人一人の学習状況を共有し、適切な助言指導を行う。	A		個人差への対応。
		総合的な学習の時間での課題研究や上級学校について考える校外学習、学部・学科調査から、自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。	A		卒業後の進路の検討・決定。
1 1 4 年次	基本的生活習慣を育成する。	生徒・教員ともに、あいさつの日常化・習慣化を図る。	A	A	更なる気持ちの良いあいさつを目指していきたい。
		遅刻をさせない。睡眠時間を確保させ、朝のSHRでの指導の強化に努める。	A		今年度の状況を継続する。
		思いやりある心を育て、良いクラスの雰囲気、環境づくりに努める。	A		今年度の状況を継続する。
	学習の習慣化と基礎学力の育成を図る。	「アクティブ・ラーニング」を積極的に導入し、自ら考える力を養い、応用・発展へと広がるのある授業を展開する。国公立大学の二次試験に対応できる論理性・表現力を育成する。	A		授業力の向上とテスト問題のレベルアップを図る。
		小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	A		今年度の状況を継続する。
		スコラ手帳を活用し、年次平均で平日2時間以上の学習時間を確保させる。	A		今年度の状況を継続する。
	自己理解と進路意識の高揚を図る。	進路講演会、大学見学会、卒業生との学習相談会等により、自己理解と進路意識の向上を図る。	A		現状の進路行事の内容をより深めていきたい。
		個人面談を重視し、難関大学への進学を早期に意識させる。また、LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して進学に関するアドバイスや情報提供に努める。	A		今年度の状況を継続する。
	その他	継続した部活動への参加の推進を図る。	A		今年度の状況を継続する。
	1 2 5 年次	規律ある基本的生活習慣を育成する。	家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。		A
生徒との面談を繰り返すことによって生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。			A	次年度も継続。	
生徒間、生徒と教員間の集団としての信頼関係を形成する。		発展期を迎え、クラスの団結と仲間意識の向上のためLHR活動を充実させる。	A	次年度も継続。	
		生徒との面談を年次職員全員で取り組むことによって一層の生徒理解を図る。	A	次年度も継続。	
学習習慣と基礎学力の育成を図る。		「家庭学習の記録」表などを導入することによって家庭学習時間を確保する。	A		
異文化理解と自己理解について考察を深める生徒を育成する。		台湾への修学旅行をとおして、異文化理解および異文化から自国の文化を再確認する。	A	受験向け課外の充実を図る。	
	最終年次に向けて、大学模擬授業や進路講演会をとおして自己理解を深め、進路意識の向上を図る。	A	生徒の希望する進路実現をめざす。		
1 3 6 年次	規律と活力ある基本的生活習慣を完成する。	遅刻指導を重点的に行うことを継続することで、早めの登校時間を習慣づけ学校生活にリズム感を持たせる。	A	A	1月の遅刻者を減らす。
		生活記録表の記入と提出を継続させることで、生徒と担任間の意思疎通を密にし、生徒動向の把握に努める。	A		自己の生活全般に対するマネジメント能力の向上。

別紙様式2 (中等)

	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての凝集性を高める。	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディースペースやブライトホール、ラーニング commons の活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気の醸成に努める。	A	A	さらに、学校での学習者を増やす。
		担任および副担任との面談はもちろん、時期に応じて年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず6年次職員団として生徒情報の共有を図る。	A		生徒全員の情報を年次会議等で共有化。
	志高い進路意識の維持による進路実現を図る。	学年集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を喚起、維持させる一方、複数回の面談をとおして個に応じた受験指導を図る。	A		個別面談を通じての個々においた指導。
		LHRや総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては質の高い学力の向上を図る。	A		OBOGや業者による説明会を通じての意識向上。
	最上級生としての自覚により、下級生に範を垂れる。	年度前半の学校行事や部活動においては、悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。	A		かえて祭等の年度前半の行事でのリーダーシップ育成。
		縦割り活動をとおして、最上級生としての振る舞いを自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。	A	先輩から後輩へ受け継がれる学風創造の意識向上徹底。	
14 国語科	基本的な学習習慣の定着を図る。	学習ガイダンスを重視し、学習の見通しを持たせ、計画的に学習しようとする態度を育てると共に、予習・復習の学習習慣を身につけさせる。	B	A	学習ガイダンスを年度始めだけでなく、試験前や行事後等、効果的に行う必要がある。
		単元ごとに明確な到達目標を提示し、段階に合わせた授業計画と評価計画を提示する。	B		
	読解指導の深化を図る。	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、芸術論や科学論等幅広い分野の文章を客観的に読解できる力を育成する。	A		今年度の状況を継続する。
		A・L型授業展開をすることにより、他者との関わりの中での学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を目指す。	A		
	「書くこと」の指導を徹底する。	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	A		今年度の状況を継続する。
		各年次に合わせた添削指導を行うことにより、論理的文章表現力の向上を図る。	A		
	「聞く」態度の育成と適切な話し方を指導する。	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	A		今年度の状況を継続する。
		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		
	研修機会の充実を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を集めて活用する。	A		今年度の状況を継続する。
		定期的な教科会を開くと共に、互見授業を行うことで年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	A		
他教科の授業を積極的に参観し、指導法の工夫を取り入れる。		A			
15 社会科	6年間を見通した教科指導体制を構築すると共に、各時期において身につけるべき能力を明確に定めて授業実践を行う。	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施すると共に、各年次での学習目標を明確に提示した上で実践を行う。	A	A	学習目標の見直し。
		生徒の発達段階に応じた学習内容と方法を検討し、実践に生かす。 ・基礎期(中1～2) 学習内容を精選し、言語活動を積極的に導入する。 ・充実期(中3～4) 効果的な先取り学習や教科横断型授業の研究を進める。 ・発展期(中5～6) 進路実現に必要な学力を養成する。 多様な進路希望に対応できる科目選択の在り方を研究する。	A		前期において、後期の学習内容との関連をより意識した実践を行う。

別紙様式2 (中等)

	生徒主体の授業の展開を常に意識し、学習意欲を喚起するための指導法の工夫と改善を図る。	<p>「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れた授業を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会での話し合いを生かしながら能動的な学習につなげられるような学習課題や発問の開発を継続する。 ・ICTを積極的に活用することで、課題探究に対する意欲を高めると共に、思考力や表現力の育成を図る。 ・R80を活用して、自身の考えを論理的に記述したり表現したりするなど、言語活動の充実を図る。 ・TO学習を取り入れ、学習成果の確認や課題の克服を生徒同士で行うことにより、学習意欲を高めると共に、学びの中から豊かな人間性を育む。 	A	A	さらなるアクティブ・ラーニング実践の可能性を追究する。
	自ら学ぶ生徒を養成するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出や小テスト、家庭学習を充実させることにより基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。 ・課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。 	A		小テストや課外の内容や方法を見直し、より効果的な実践を追究する。
16 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成を図る。	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、「アクティブ・ラーニング」を踏まえた授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	6年間の指導のあり方の確立。新テストに向けての対策。
		定期的に課題を与え、家庭学習と充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	A		学年ごと課題を精選し提示。小テストの実施。
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		入試問題等、学習進度に合わせて提示。
	学習意欲を喚起する指導の工夫を行う。	SSHの取組を踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図り、探究力・論理力の育成を目指す。	A		クロスカリキュラム授業の開発。
		課題や課題提示の仕方、TO学習を工夫し、生徒たちの知的好奇心を喚起する。	A		到達度に応じた課題の提示。
		ICTを積極的に活用し、数学的な思考力・表現力の育成を目指す。	A		ICTの効果的活用。
	個に応じた指導を行う。	きめ細かな指導をするため、習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A		少人数・習熟度授業の実施。
		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		課外や補習授業の実施。
17 理科	学力の向上を図る。	オリジナルプリントや小テストなどを活用して、時間を効率的に使い、演習時間などを多くとり、基礎学力の徹底を図る。	A	A	必要なときに誰もが使うことのできるように教材をデジタル化する。
		「アクティブ・ラーニング」やICT活用、TO学習等により主体的学習態度や生徒の育成を図る。	A		発達段階を意識した活用を計画していく。
	SSH第2期推進のため、つくばという立地を生かした授業研究を行う。	つくばの研究所や施設を利用した地域との連携、筑波大学などとの高大連携により、生徒の探究力・論理力の育成を図る	A		さらに広大連携を推進していく。
		ICTや外部講師を活用した出前授業やTO学習等を研究する。	A		各年次における出前授業を体系化する。

別紙様式2 (中等)

	6年間の系統的なカリキュラムを実践・修正を行う。	昨年度までに開発してきた前期課程で高校教科書の一部を先取りして学習することや重複をしないようなカリキュラムを実践し、前期から後期への接続の体系化を図る。	A	全教員でさらに情報交換を積極的に行う。	
		同じ科目を教える教科担当同士が密に連絡を取り合い、スムーズに接続できるようにする。	A		全教員でさらに情報交換を積極的に行う。
	生徒の学力を向上させ、探究の過程を学ばせる効果的な学習法・指導法を開発する。	「アクティブ・ラーニング」や ICT, T O 学習等を取り入れた授業を相互に参観し、その指導法を教科会で共有することにより指導力の向上を図る。	B		授業相互参観での内容を教科会でさらに共有し指導力向上を図る。
18 英語科	総合的なコミュニケーション能力を育成する。	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。 オーセンティックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A	A	それぞれの技能のバランスに配慮する。
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		実践的なコミュニケーションを意識する。
	基本的な英語力の構築を図る。	自主学习ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	A		効果的な宿題の出し方や、小テストの工夫。
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		導入時における辞書指導。
	英語を用いた言語活動を積極的に行える力を育成する。	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動を通して自分の意見をきちんと英語で表現できる力を養う。	A		前期はスモールトーク、後期はディベートを念頭に。
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		効果的な補助教材の選定。
	国際的な視野を広げる言語活動の構築を図る。	ALT や留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		ALT の効果的な活用。
		インタラクティブフォーラムやスピーチコンテストなどに積極的に参加し、意欲的に言語活動に取り組む機会を設ける。	A		大会への参加を通してより高度な英語力の育成を行う。
	6年間を通した並木中等英語科としての指導形態の確立・発展を図る。	教科会やちょっと見週間等を通して、各年次における英語授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		常に6年間の指導を意識する。
		ディベート授業研究発表会の実施や公開授業等を通して並木での英語授業形態を外部的に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		授業公開を通して、並木英語科スタイルの継承と発展。
19 芸術科 (音楽)	基礎的な能力を養う。	実技の中で音楽の基礎知識にふれ、わかりやすく説明を行う。	A	A	わかりやすい基礎知識の充実。
		反復練習を取り入れ、表現に必要な技能や能力を養う。	A		ペアでの反復練習等を取り入れ、技能の習得につなげる。
	幅広い表現活動の充実を図る。	歌唱、器楽、創作の分野において、グループ学習を取り入れた表現活動を多く行う。	A		グループでの活動を重視した活動を更に工夫する。
		グループ学習の中で意見交換の場を多くもち、表現したいことを意識した活動を重視する。	B		意見交換の場を設け、それを生かす活動を重視する。
	鑑賞教育を充実する。7	音楽の形態だけでなく、用いる作曲家の時代、歴史などにも触れ、幅広い観点から鑑賞する能力を高める。	A		興味を示すような導入、ワークシートの工夫を試みる。
		音楽の諸要素に着目して鑑賞し、意見を発表する活動を多く取り入れ、様々な見方ができる能力を養う。	A		他の人の意見を聴くことで感性を磨くように導く指導の工夫。

別紙様式 2 (中等)

	創作活動を充実する。	基礎知識を用いて簡単な創作を行い、音楽の構成について別の視点から学ぶ。	B		構成を生かした創作の充実。
		音楽の構成や進行に従って作曲を行い、発表活動を行う。	B		つくったものを発表する活動を多く取り入れる。
20 芸術科 (美術)	基本的な美術の能力を育成する。	体験活動を充実させ、美術の基礎知識を身につける。	A	A	3年次計画で広域を網羅する。
		豊富な表現活動に触れ、美的感覚と表現技術を養う。	A		鑑賞を増やす。
	柔軟な表現活動を育成する。	豊富な知識や表現方法を能動的に活用する喜びを養う。	A		今年度の状況を継続する。
		自他の価値観を認め、自信をもって表現活動する。	B		合評会を計画する。
	鑑賞活動を充実する。	自国の美術文化の特徴を理解し、優れた伝統美術に関心をもつ。	A		今年度の状況を継続する。
		日本の美術と他国の美術価値の違いに関心を深め、国際理解を深める。	B		お面等テーマ毎に比較鑑賞。
美的体験を日常生活に生かす。	デザイン感覚などを実生活に活用できるスキルを身につける。	A	日用品をデザインする。		
	絵画や彫刻・工芸などを暮らしに役立てる感覚を身につける。	A	用途に合わせた表現。		
21 保健体育者	体力を高め、心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢を育成する。	A	A	体力テスト上位者を表彰、後期生では種目選択を導入。
		体づくり運動の効果的な実践を行う。	A		体づくり運動で体力を高める運動の取り組み強化と、各種目の準備運動時に補強運動の導入。
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	A		体力テストの結果を基に、自己の状況を把握させる。
	運動を豊かに実践することができるようになる。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		個々の能力に応じた運動で楽しめるルール作り。
		幅広い基礎運動技能を修得させる。	A		前期生から多くの種目を経験させ、指導も教員の専門種目を生かした担当制を導入。
		ルールを理解させる。	A		段階的な指導を継続し、ルールの定着を図る。
	スポーツマンシップを育成する。	規律ある行動をとる。	A		4月の授業時に全学年、集団行動を徹底して指導し年度のスタートをきる。
		あいさつを励行する。	B		授業開始・終了、ゲーム開始・終了時における挨拶の徹底。
		マナー、ルールを遵守させる。	A		常に声かけを行い、フェアプレー精神を常に意識させる。
	保健学習の充実を図る。	心身の発達と心の健康について理解させる。	A		心身相関の理解。
健康と環境、障害の防止について理解させる。		A	ICT機器の活用や実習により、生徒の能動的な学習に結び付ける。		

別紙様式 2 (中等)

		健康な生活と病気の予防について理解させる。	A		各自の生活習慣や食習慣を改善し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
2 2 技術・家庭科 における技術 分野	生徒の学習意欲を喚起する学習指導を進める。	他教科との関連を意識した授業展開から、生徒の知的好奇心を喚起する。	A	A	今年度の状況を継続する。
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		個人で製作をやりたがる生徒が多い。
	科学的な理解と技術の習得を図る。	実習などの体験的な活動を通して、基本的な技術を習得する。	A		今年度の状況を継続する。
		ワークシートや学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A		今年度の状況を継続する。
		生活に生かす力を育成する。	生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。		A
	ワークシートや実習を通して、生活の場面を想定できるような授業を展開する。	A	今年度の状況を継続する。		
2 3 家庭科	課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的態度を育成する。	実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A	A	実験や実習については結果だけでなく科学的根拠や社会的・文化的背景なども取り扱う。
		生徒の興味・関心に応えらるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A		ICTの有効的に活用した授業を計画・実施する。
	科学的な理解と技術の習得を図る。	グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		実験・実習においては授業内容の理解と共にコミュニケーション力の涵養も意識する。
		生活を科学的にとらえる授業を展開する。	A		他教科とのクロスカリキュラムを検討する。
		基礎的・基本的な技術を習得できるような実習を行う。生徒の興味・関心に応えらるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A		生徒の創意工夫を生かせる実習内容を検討する。
	生活の場での実践力を育成する。	生活者として課題をみつけ改善できる実践力を育て学んだことを生かす態度を育てる。	A		長期休暇中に具体的に実践した内容を共有する。
2 4 情報科	IT 活用及びコミュニケーション能力を育成する。	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。	B	A	ビジネス用にこだわらず、生徒に必要なスキルを育成するためのソフトウェアを選択する。
		情報の検索、加工、発信という基本的な IT 活用プロセスを扱う。	A		現行通りで問題なし。
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	B		グループワークの機会を増やす。
	情報倫理を育成する。	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	A		現行通りで問題なし。
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		現行通りで問題なし。
	情報モラルを重視した指導を行う。	A	現行通りで問題なし。		

別紙様式2 (中等)

	他教科や外部組織との連携を図る。	学校行事・課題探究とリンクした実習を取り入れる。	A		現行通りで問題なし。
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		現行通りで問題なし。
25 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的に行動しようとする態度を育成する。	年次や学級の生徒の状況を把握した上でその実態に応じた題材を提示する等、「ともに歩む」の計画的な取り扱いに努める。	A	A	題材の精選。
		社会人講師等による講演を通して、学校での経験が、将来のよりよい人間関係の構築や円滑な社会生活の維持に生かせることを実感させる。	B		講演の際の生徒への意識づけ。
		「道徳」「道徳プラス」の授業や文化祭などの学校行事において、学級やグループ内で意見交換や話し合いの場を設け、他者の意見を基に自己の考えを深化させる。	A		意見の集約方法の工夫。
		授業で考えたことを、従前の自己の生活や考え方と比較し、今後の生き方に反映できるようにまとめさせる。	A		自己の行動を振り返る機会の設定。
26 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開催し、生徒自らが積極的に企画運営できる能力を育てる。	B	A	年間を通して生徒主体の年次集会の実施を図る。
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		継続して実施する。
	集団や社会の一員として望ましい人間関係を構築し、よりよい生活環境を築こうとする態度や自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の企画・運営をする能力を育てるとともに、集団の一員として望ましい人間関係を構築できる能力を培う。	A		集団の中での自分の役割を自覚させ自ら動ける行動力を育てる。
27 総合的な学習の時間	自分の興味あることについてのテーマを設定し、そのテーマに基づいて調べ学習を展開することで、情報収集能力や情報活用能力、考察力、プレゼン力を育成する。	「伸びしろ日本一茨城の魅力を伝えよう かえでツーリスト」というテーマのもと、自分の住んでいる地域を実際に歩いたり、調べたりなどして、地域再発見の機会を設け、情報収集能力や情報活用能力、プレゼンテーション能力（発表資料作成）を育成する。（1年）	A	A	自分の住む茨城への愛着を膨らませる活動やプレゼン力育成の指導の継続。
		「ミニ課題探究Ⅰ～ユネスコスクールを切り口に世界の社会問題を考えよう～」において、テーマ設定能力や調べる力、調べたことから考察する力、プレゼンテーション能力（スライド作成）を育成する。（1年）	A		テーマ設定や仮説の立て方の指導の継続。
	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能力、課題解決能力を育成する。また、自分の将来の夢や職業を意識し、進路実現にむけて行動する力を育成する。	つくばサイエンスフロントで科学に対する興味・関心をさらにもたせる。ミニ課題探究Ⅱにおいて、「身近な疑問を解決する」というテーマのもと、フィールドワークや実験・観察などを行う。研究論文やポスターの作成を通して、テーマ設定能力や探究の過程の手法を学び、分析力や表現力、論理力を育成する。（2年）	A		フィールドワークや実験・観察方法の具体的な計画立てへの指導。
		「キッズニアかえで～将来の職業について考えよう～」というテーマのもと、自分に適した職業を知る活動や職業調べ、キャリアアトラクションの企画立案・実践を通して、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。（2年）	A		職業教育から自分の夢や進路選択へつなげ、さらに日頃の学習に結びつける指導。
		「かえでユニバーシティ～卒業後の進路について考えよう～」というテーマのもと、大学の学部・学科を調べる活動や文化祭におけるキャリアアトラクションの企画立案・実践を通して、自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。（3年）	A		大学訪問における実施方法や内容の見直し。
		「ミニ課題探究Ⅲ～地域の社会問題を解決しよう～」というテーマのもと、インタビュー、体験活動、フィールドワークやレポート作成を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。（3年）	A		グループでの学び合いの充実。

別紙様式2 (中等)

職業観や学問に対する視野を広げていく中で、将来の自己理想像を構築する。	大学出前授業，進路講演会，文理選択説明会，大学見学会，卒業生との学習相談会などの進路学習を充実させ，進路に対する視野の拡張と難関大学への意識を高める。(4年)	A	継続的に実施できる方策を考える。
	道徳の授業を通して，職業観や生き方に対する意識を高める。(4年)	A	進路実現にも結びつけた指導。
自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら理解しようとする能力を養うことで将来の進路実現につなげる。	「異文化理解と自己理解」というテーマで，台湾への修学旅行をとおして異文化理解と異文化から自国の文化を再確認する。(5年)	A	旅行先のベトナムへの変更にに向けた準備。
	自己の進路について，多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるよう一助，そして，最終年次に向けて意欲の向上を図り，進路実現を目指す。(5年)	A	進路実現に向けた指導の継続。
6カ年教育における諸活動をとおして，自らの生きる道を，主体性をもって選択し決断できる能力を育成する。	「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで，進路情報の収集を進める一方，進路講演会などをとおして，その都度自己を見つめ直す機会も設ける。(6年)	A	進路選択を通しての自己実現の達成状況の把握を継続。
	並木中等での6年間の総括をすべく，時期により作文やレポート作成を行い，振り返りと将来への展望を促す。(6年)	A	6カ年の学校生活を土台にした将来展望の把握を継続。

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない